

鬼来迎

地獄絵図を再現 虫生広濟寺



因果応報、勧善懲悪を説く古典的地獄劇の鬼来迎は、鎌倉時代にはじまり、およそ800年の伝統があるといわれています。

今年も地獄の釜が開くといわれる8月16日、虫生地区広濟寺で地元鬼来迎保存会により上演され、例年とは違い涼しい風を時折感じながら、大勢の観客が全国でも珍しい仏教劇を食い入るように見つめました。

また、上演前には、鬼婆に抱かれた子どもは健康に育つと言い伝えのある「虫封じ」が行われ、境内に赤ちゃんの大きな泣き声が響き渡りました。

鬼来迎の演者はもちろん、舞台の設定から衣装整備まで、すべて地元の方々により行われています。
 劇は、地獄の責苦を骨子とした「大序→賽の河原→釜入れ→死出の山」の4段と、広濟寺建立縁起を物語る「和尚道行→墓参→和尚物語」の3段で、全7段からなります。
 毎年上演されるのは、そのうちの前4段で、お盆の施餓鬼会のあとに広濟寺境内で上演されます。



- 指揮者 佐久間宣行
- 一番員 越川 秀直
- 二番員 伊藤 和行
- 三番員 伊藤 敬広
- 補助員 伊藤 駿

●第8分団第3部操法要員《敬称略》

7月26日、千葉県消防学校を会場に、第50回千葉県消防操法大会が行われ、山武支部の代表として、小型ポンプ操法の部に第8分団第3部（尾垂五区・六区）が出場しました。
 炎天下の中、県内10支部12チームが操法技術を競い合い、第8分団第3部は努力賞を受賞しました。

技・速さ・正確さを競う 千葉県消防操法大会